

内閣府 OKINAWA41 名桜大学生による学生記事(2020 年度) 「ウィズ／アフターコロナ」を踏まえた沖縄観光に関するミニ意見・提言案

公立大学法人名桜大学国際学群観光産業専攻
教授 大谷健太郎

◆テーマ：

「ウィズ／アフターコロナ」を踏まえた沖縄観光に関するミニ意見・提言案

◆方法：名桜大学国際学群観光産業専攻大谷ゼミ 3 年次 12 名が、大谷研究室の記事作成基本方針にしたがって、「ウィズ／アフターコロナ」を踏まえた沖縄観光に関するミニ意見および提言案などの記事(レポート)を作成する

◆大谷研究室における記事作成の前提（ゼミでの議論を行うための前提）

まず、大谷研究室の記事作成に対する背景として以下の様に整理する。

- ・首相官邸「第 36 回新型コロナウイルス感染症対策本部」の見解(5/25)
- ・5 月 25 日からはソーシャルディスタンスを確保しつつ「観光振興は域内で徐々に」
- ・6 月 19 日から「観光振興は県をまたぐものを含めて徐々に」
- ・沖縄県内 4 月のインバウンドはゼロ、国は 6 月中の入国後 2 週間隔離の方針
- ・7 月下旬から宿泊・施設利用・飲食クーポン等を付与する「GoTo キャンペーン」実施

全国の緊急事態宣言の解除にともなって緩やかに経済活動を再開させていくなかで、観光に関して政府は「Go To キャンペーン」などの需要喚起策、沖縄県であれば「沖縄 彩発見」、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(以下、OCVB)による「おうちでおきなわ気分」などの事業とプロモーション、キャンペーンを展開している。

また、OCVB による 4 月～7 月の沖縄観光の予測では、外国と国内観光客の消費額の合計は前年 2019 年同期と比較して約 2,320 億円の減少の約 392 億円(約 85.5%減)となり、国内客 194 万 7703 人は前年比 81.2%減少、外国人観光客 111 万 9900 人は 100%減少でゼロを予測している。

以上のような背景と、熊田順一(2020)による JTB 総合研究所のコラム、JTB 総合研究所(2020)『新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化および旅行再開に向けての意識調査』なども参考に、次のようなキーワードを採用する。

- ・高次欲求からのダウングレードで「生きる」ことに必要な生理的欲求と快楽(気分転換)
- ・回復の段階／国内／至近距離／若者／屋外／食と風景ニーズのさらなる強まり／個人の趣味、SIT のより一層の発展 など

◆大谷研究室の記事作成基本方針(ゼミでの議論を経て 2020 年 5 月 28 日に決定)

- ・2020 年 5 月末現在、当面は多少消極的ではあるが、受入側と訪問側双方の安全と安心に向けた対策を可能な限り強化した上で、国内客と県民の需要を頼りに沖縄観光を少しでも維持させ、回復期などに備えて、繋げていくという方向性

以上のような考え方をもとに、2020 年度大谷研究室 12 名の学生が中心となって記事を作成していきます。ときに思いつきのアイデア、実現可能性の低い提言、類似性が高い提案など力不足の面もあろうかと思いますが、あくまで学生が考える沖縄観光へのミニ意見、提言案と捉えてもらえたら幸いです。

2020 年 5 月末日 大谷健太郎